



八雲

学校だより11月号

令和7年 10月31日

目黒区立八雲小学校

後期のスタートはあいさつから

副校長 坪田 寛

令和7年度の教育活動も後期に入り、半月ほど立ちました。子どもたちは前期の学校生活を振り返り、新たな目標をもって後期の学校生活に取り組んでいます。

10月28日(火)から31日(金)までのあいさつ運動ありがとうございました。子どもたちと地域の皆様、保護者の皆様の笑顔と元気の良いあいさつで、気持ちよく学校生活のスタートを切ることができました。その後の校舎内の様子からも、あいさつを進んでしようとする子どもたちの様子が見られました。ご協力ありがとうございました。

さて、現在八雲小学校では一つ一つの行事や教育活動ごとに振り返りをし、よりよい活動となるよう次年度へ向けて準備を進めています。各行事・各教育活動の実施状況、子どもたちの振り返り、保護者・地域の方々のアンケート、教職員からの反省などを参考に、多角的に行事や活動を見直し、次年度に向けて、よりよい教育活動を目指して準備しています。

11月には、令和8年度の教育活動の計画・改善の参考の一つとなる「学校評価」を行います。本年度の改善としては、令和6年度の結果を受け、今年度は「心の教育」「情報発信」などを中心に改善を図っています。毎月実施している「生活アンケート」の実施と対応、ゲストティーチャーを招いての人権教育、ホームページやHome & School を使った情報発信などもその取組の一つです。今後もよりよい教育活動を目指して取組を向上させていきます。

ご協力の程、よろしくお願いします。



弁護士によるいじめ防止授業

9月26日(金)1時間目に6年生、2時間目に5年生が、弁護士の方をお招きした、いじめ防止に関する授業を行いました。講話の内容をいくつか紹介します。

○人権が守られている状態とは、「安心」「自信」「自由」が守られている状態。誰かが守ってくれるものではなく、一人一人が周りの人の人権を大切にすることが必要。

○いじめは、だれかの「安心」「自信」「自由」がおびやかされている状態。「自分の不快感」と「相手に何をするか」は切り離して考えなくてはならない。

○集団になると一人の感じる罪悪感は薄れる。

○「いじめられる人にも原因がある」は、いじめる側の言い訳にすぎない。許されるいじめは、一切ない。どんな人にもいじめる権利はない。いじめは、間違った方法である。

講話の最後には、いじめの4層構造「被害者」「加害者」「同調者」「傍観者」について、それぞれどんなことをすればいじめを防げるのかをグループで考えました。弁護士の方からは、「『傍観者』には、人をいじめから守る力がある。何もできないとあきらめないでほしい。」とお話いただきました。

ご参観いただいた保護者の方からも、学ぶことが多かったとの感想をいただき、子ども、教員、保護者にとって有意義な時間となりました。

記名のお願い

朝晩の冷え込みが増し、上着を着用する児童が多くなってきました。それに伴い、校内での上着の落とし物も増えております。

先月もお知らせいたしましたが、落とし物の特定・返却をスムーズに行うために、**上着や持ち物には必ず記名をお願いします。**

特に、脱ぎ着の多い体育や休み時間などに置き忘れが発生しやすくなっています。記名があることで、すぐに持ち主のもとへ返すことができます。

ご家庭でのご協力を、よろしくお願いします。

生活目標「進んで仕事をしよう」

掃除や当番・係活動など、学校生活には子どもたちが自ら取り組む場面が多くあります。自分から気づいて行動する力は、社会性や責任感を育てる大切な一歩です。

学校では、子どもたちが役割を果たし、仲間と協力する姿が見られます。ご家庭でも、お手伝いを任せるなどすることで、主体性を育むきっかけになります。学校と家庭で連携し、子どもたちの前向きな行動を引き出していきたいと思えます。

異学年交流の中で成長することができた合同遠足

1・2 年担任

10月3日(金)1・2年生は駒沢オリンピック公園へ合同遠足に行きました。朝は爽やかな秋晴れて、子どもたちは登校時から胸を弾ませていました。特に1年生は、初めての遠足がとても楽しみな様子でした。一方2年生は、昨年度の経験を生かし、リーダー・時計・副リーダーなど、それぞれの役割をしっかりと果たしていました。歩道では、「2年生は車道側を歩こう。」と自然に声をかけ合い、1年生を守る姿が見られ、その成長に頼もしさを感じました。

公園到着後は、1・2年混合の小グループで4つのミニゲームに挑戦しました。どのミニゲームも、「協力する力」が求められるゲームでしたが、1・2年生でしっかりと力や息を合わせて取り組むことができ、集団としての成長を感じました。また自由遊びでは、広場での鬼ごっこや遊具遊びに夢中になり、笑顔があふれました。お弁当の時間になると、グループで輪になって楽しく会話を弾ませ、ふだん教室では関わりの少ない子どもたち同士にも自然な交流が広がりました。

今回の遠足は、1・2年生ともにより経験となったかと思います。残り約100日となった学校生活でもこの経験を生かし、学年を越えてよりよい関係を築いてほしいと願っています。そのために、学校とご家庭が引き続き連携し、子どもたち一人ひとりの安全と学びを温かく支えていきたいと思っています。

末尾になりますが、保護者の皆様には、持ち物の準備やお弁当づくり、体調管理、朝の見送りなど、多方面でご協力頂き、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



学年のめあてを意識しながら楽しんだつくし野アスレチック

4 年担任

4年生は、10月2日につくし野フィールドアスレチックへ自然体験教室に行きました。「友達と協力する」「自分たちで考えて行動する」「全体のことを考える」の3つをめあてとし、グループ活動をしました。事前学習では、役割分担をし、グループごとに遊ぶアスレチックの順番を決めて、当日に備えました。

待ちに待った自然体験教室当日。持ち物の確認も入念に、しっかりと準備して出発しました。グループ行動では、自分たちの目的の場所に向かって一目散。どのグループも、リーダーを中心にそれぞれの役割を果たしながら、はぐれることなく活動していました。少し難しそうなアスレチックに「こわい。」と言っている子もいましたが、友達に「大丈夫、こうやればこわくないよ。」「がんばって。」などと励まされ、友達と一緒にだから勇気を出して挑戦できたこともあったようです。また、池のエリアではとても大胆に遊ぶ様子もあり、大きく体を動かして遊ぶことで心から楽しい時間を過ごしていました。

バスの運転手や現地のスタッフに自らあいさつしたり、使った場所をきれいにゴミ拾いしたり、声をかけ合って時間を守ったりと、学年として大きな成長を感じた1日でした。ルールを守ってこそその楽しい活動だと学びました。これからの学校生活にも生かしていったほしいと思います。

保護者の皆様には、持ち物の準備やお弁当の準備、汚れた洋服の洗濯など、様々なご協力をいただき、ありがとうございました。

